

非核の政府を求める石川の会 会報

# 非核・いしかわ

原水爆禁止二〇一四年世界大会―広島

ノー・ニュークス！ テイク・アクション！

核兵器はいらない 行動しよう

神田順一

【初日】世界大会開会総会（六五〇〇人、石川県から四〇人参加）、非核の政府を求める会交流会  
【二日目】平和記念公園・原爆碑への献花、世界大会第四分科会「非核平和の自治体づくり」（二〇〇人参加）、元日本銀行広島支店（被爆建物）及びN



それぞれが集めた「核兵器全面禁止のアピール署名」数を掲げた石川県参加者  
(8月4日、広島県立総合体育館ホール)

事務局  
〒920-0848  
金沢市京町 28-8  
石川民医連労働組合 気付  
Tel 076-251-0014  
ゆうちょ銀行振替口座  
00760-0-15689

## 非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

HK広島支局（被爆七〇年アーカイブ展）の見学  
【三日目】広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式（四万五千人参加）、世界大会閉会総会（七千人参加）

初日の開会総会では、国民平和大行進の通し行進者九人と国際青年リレー行進者がステージに上がり紹介されたときが最高潮だった。一四年連続で昨年（富山↓広島コース）の通し行進を務められた竹田昭彦さん（神奈川平和遺族会）や二年連続となるマラヤ・フアブロスさん（非核フィリピン連合）も元氣よくアピールされていた。

国内での草の根運動では、「核兵器廃絶アピール署名の住民過半数をめざす」（北海道）、二〇〇万署名と二〇一五年NPTに一五〇人参加を目標に「（大阪）、「県内全ての自治体で原爆展を開催」（岡山）、「被爆証言の聴き取りができる最後の世代として」（兵庫）、「原発事故から三年余の現状報告」（福島）、「辺野古新基地建設反対運動への支援の訴え」（沖縄）と多様な取り組みの報告があった。

二日目の第四分科会「非核平和の自治体づくり」では、九条を守る首長の会の秋田県湯沢町の鈴木俊夫元町長と、小溝泰義・広島平和文化センター理事長の特別発言があり、参加者と活発な質疑も 行わ



孫と遊んでいると、子どもの成長に眼を見張る。人間の脳の発達が生後三歳までに八〇%、六歳までに八五%、一〇歳までに九〇%

と聞くと住まいや地域環境がいかに大切であるか改めて考える▼孫の発達に直接関わる住まいの近傍と「領域感」を考えるうえで、室生犀星『幼年時代』に描かれる「ガリマ隊」は、大正時代の著作であるが、現代都市が失ってきたものⅡ街の生活感を示す好例だ▼少年達は通りに迫り出す枝の果実を「収穫」する（金沢の城下であった家々では庭に実なる樹々が好んで植栽されていた）。少年たちは一人では出来なくても隊を組むや、通りという「公共空間」は直ちに自分達の「縄張り」と化する。怒鳴り声を上げている庭のオヤジは隊にとって寸時は敵となるのであるが、こんな場合は素早く逃げるが勝ちであると知っている▼暉峻淑子氏は著書『豊かさへ もうひとつの道』で「子どもは遊びの中で、大人に管理されず、命令されず本当に自主的な自分の人生の主人公になれる。…そして、自主的であればこそ自分の能力を精いっぱい発揮する喜びを知ります」と述べている（傍点筆者）▼金沢ばかりか日本のまちが私たちに語りかけるように、半世紀の都市の変容Ⅱとりわけ私的自動車交通に依存した都市づくりによって失ったものに人間居住のあり方に深く関わる「公共空間と領域感」の喪失があると感じている。（一）

れた。平和首長会議事務総長である小溝泰義さんには今年六月、はだしのゲンをひろめる会から『はだしのゲン』『Barefoot Gen』の普及への支援をお願いしたばかりで、世界大会分科会で再会することができ感激した。世界の都市、市民、NGO等と連携しながら核兵器廃絶の行動を進めている平和首長会議との協力共同を強めていくよい機会となった。

私もはだしのゲンをひろめる会の取り組みと三年連続で実施している非核石川の会の「平和事業に関する自治体アンケート」にもとづき、平和首長会議の加盟自治体づくりや非核平和施策の充実を働きかけていることを報告した。

三日目の閉会総会では、何度も感動的なシーンがあった。国連代表軍縮問題担当上級代表のアンゲラ・ケインさんとオーストリア、キューバ政府代表の挨拶に呼んで、大会参加者が集めた核兵器廃絶アピール署名を掲げてプレゼンテーション。日本の草の根からの決意として中内晃子さん（新日本婦人の会金沢支部）が登壇し、二〇一五年NPT再検討会議に向けて毎日アピール署名に取り組み、三五〇筆集めたと報告。ファイナレで参加者全員が「ノー・ニュークス！」「デイク・アクション！」とコールし、海外代表のみなさんとともに **We shall overcome** を大合唱したことなどである。

二〇一五年四月から開かれる国連NPT再検討会議への要請行動に残された期間は長くない。大会参加者の決意として

**Think Globally Act Locally**

**地球的視野で思考し、地域から行動しよう**

### ◇「原水爆禁止世界大会・広島」参加報告◇ 親子で貴重な体験ができました

作平奈美

今回私は小学校六年生の娘と共に参加させていただきました。娘もちょうど社会の授業で歴史を習っており、日本に起きた悲惨な出来事を直に触れるいい機会だと思いました。

私自身広島には高校の修学旅行の時に訪れ、その時に一度平和記念資料館を訪れました。高校生の私にはすごくショッキングな内容であり、あまりにも酷い事実に資料館の中で涙が出て止まらなかつたのを覚えています。あれから時が経ち母となりました。高校生の目から見た広島と、母になり娘と共に見る広島はどう私に見えるのか、何を感じることが出来るのか、期待して広島に入りました。

路面電車や近代的な建物が立ち並び栄えている



世界大会に向けて5,929羽の折り鶴で作成  
(なんぶやすらぎホーム1階ロビーにて)

都会であり、六九年前の悲惨な出来事があったとは全く感じませんでした。被爆体験者の方々のお話や、実際に娘と共に広島平和記念資料館を観覧し、改めて六九年前の悲惨な出来事を知り、資料館では涙が止まりませんでした。

何も悪いことをしていないのに・・・普通の暮らしをいつも通りに過ごしていたのに・・・。

八時一五分一発の原子爆弾で〇・三秒の間にどれだけの命、どれだけの思いが消え去ったのかと思うと胸が締め付けられる思いでした。

被爆者の平均年齢が七九歳以上となり、当時の様子を語り継げる人が少なくなってきたと聞きました。実際に今の子供たちに原爆の話をしてピンとこないのが現状だと思います。遠く離れた広島で爆弾が落ちて大変だった。それだけの思いしかないのでは・・・と思いました。

実際に広島に来て実際に生であった事実を目で見、触れ合うことで本当にあった事実を認識し、絶対に二度と広島や長崎に起こった事実を繰り返してはいけません！原爆は二度と落としてはならないと強く思いました。

子どもたちの明るい未来のために、自分たちは何をしなければいけないのか。戦争は人と人との殺し合いであり、戦争によってもたらされるものは悲劇しかないことを次の世代に語り、思いを引き継いでいかなければいけないと感じました。

今回、原水爆禁止世界大会に参加し、親子で貴重な体験をすることができ本当に良かったと思います。  
(なんぶやすらぎホーム職員)





石川民医連とNPT再検討会議に要請団を送る石川県実行委員会が共催した美帆シボさん講演会

## ◇美帆シボさん講演会・報告◇

### 国際的視野からフランスの反核運動と原発事情のお話を聞く

八月五日（火）夜、民医連会館で『美帆シボさん講演会』が開催され、国際的視野から見た反核運動やフランスの原発事情のお話を聞きました。この講演会はアニメ『つるにのつて』の制作者でフランス在住の美帆シボさんが金沢に連続講演に来られたのを機に、石川民医連が主催、NPT再検討会議に要請団を送る石川県実行委員会が共催して急遽実現した企画です。参加者は三〇人でした。

はじめにシボさんはフランスの核開発の歴史に触れて、二〇世紀初頭の放射線研究の草分けであるキュリー夫人の話から解き起し、その娘婿で放射線物理学者のジョリオ・キュリーが第二次大戦中はレジスタンス運動に加わり、解放後はドゴール政権下で原子力庁に入庁、バグウォッツシユ会議の創設や

世界平和評議会初代議長に就任し、アピール署名運動に関与したりと、当時のフランスは核開発には抑制的な流れであったこと。それが、核兵器開発に積極的な勢力がドゴール大統領に働きかけて政策を転換させ、社会党も共産党も核抑止政策を認める中で、フランスが核保有国、原発大国になっていったという経過を振り返りました。

続いて、今日の平和運動についてシボさんの夫も深くかかわっている「平和首長会議」や「核実験被害者の会」の運動を紹介しました。そして最近の動きとして、かつてミッテラン政権で元国防大臣も歴任し、今は小さな自治体の首長をしているポール・キレスという大物政治家が「フランスの核抑止力政策は間違っていた」と発言するなど、核兵器を巡る世論は変化していると語りました。

フランスの原発事情については、一九八六年のチエルノブイリ事故に際して、放射能の影響や健康被害を小さく見せようとする政府やメディアの姿勢に対して、遠く離れたコルシカ島で羊乳チーズによる甲状腺ガンが多発している問題を告発している運動を紹介しました。

原子力発電所敷地内に侵入した若者たちの行動を通して、テロに対する無力さをさらけ出している状況なども語られました。自身も、フランス国内各地で原爆パネル展を開催したり、ヒロシマやナガサキに子供らを派遣する運動に取り組むなど草の根の運動を紹介し、参加者とともに核廃絶に向けた両国の運動を交流しました。

（文責 非核いしかわ編集部）

非核・平和のひろば  
海は命だ

過去に学び、未来を育む沖縄の心

海は命だ——沖縄はもとより日本人にとって海は命だ。四月に非核・平和を願う県平和委員会のミニツアーに参加、山野健治事務局長のガイドを聞きながらワンボックスカーで沖縄本島を巡り、普天間・辺野古・高江をめざした。海岸沿いの集落に差しかかると、美しい海を臨んで墓地が目をついた。そういえば、沖縄には「清明祭」があつて、亀甲墓の庭で親戚一同集まって先祖を供養し、墓前でお下がりをおくそうだが、集落に近い立派なお墓の一角は、先祖代々愛してきたその「美ら海」に向かって整然と並んでいる。

この海に向かい、「二度と繰り返さぬ」と誓ったはずの戦争という人殺しのための新基地設計画は、「美ら海」に寄せる沖縄の心を忘れ、北東アジアの未来を想像できない貧しい発想だ。いまこそ、過去に学び、未来を育む沖縄の心を大切にしたい。

(一)

### 沖縄県東村議会選挙に立候補する 伊佐真次さんの勝利を願って

沖縄県の「ヤンバルの森」を抱える東村議会は八人の村議全員が「ヘリパッド」を容認しています。映画「標的の村」の県内上映会の時、高江の闘いの実状報告をされた伊佐真次さん（ヘリパッドいら

ない住民の会)が九月二日告示、七日投票の東村議会選挙に立候補されることを知り、石川県から伊佐さんを当選させる支援の有志を募りました。

途中でありますが、現在一三五人から一七五、五八四円の支援金が集まっています。辺野古新基地建設の浮標と浮具の設置が強行されました。伊佐さんが激戦の東村議会選挙で勝利されることを願ってやみません。(平)

#### ◇特別寄稿◇

#### 安倍内閣の

#### 「エネルギー基本計画」を斬る(下)

児玉一八

安倍政権が今年四月一二日に閣議決定した「エネルギー基本計画」は、核燃料サイクルの推進を明記しており、高速増殖炉「もんじゅ」を「廃棄物の減容・有害度の低減や核不拡散関連技術等の向上のための国際的な研究拠点」と位置づけています。

高速増殖原型炉「もんじゅ」は、一九九五年一月にナトリウム漏洩・火災事故を起こして停止し、二〇一〇年五月に運転を十四年半ぶりに再開したものの、またもや炉内中継装置の落下事故を起こして、現在も停止したままです。

高速増殖炉は高速中性子を用いて核燃料の増殖を行う炉で、ウラン燃料の有効利用をかかげて一九九〇年頃までは欧米各国で開発にとりくまれてきました。しかし重大な問題が次々と起こって、ほとんどの国々は開発を中止しました。

「エネルギー基本計画」は、「高速増殖炉の実証」という文言が盛り込まないため、「もんじゅ」を動

かすための理由をさがしています。「廃棄物の減容・有害度の低減」は超ウラン元素等を核変換して半減期を短くすること、「核不拡散関連技術等の向上」は意味不明ですが、プルトニウム燃焼とも考えられます。

そもそも「もんじゅ」は、一九九四年に臨界となつてから二〇年間、意味ある電力生産がまったくできなかった原子炉です。それでも、ナトリウムが固まらないようにするなどの施設維持のため、毎日約六千万円を浪費し続けています。技術的な見通しがまったく立たないのに、「動かすための理由」をさがすなど無責任極まりないものです。

福島原発事故をふまえて日本原子力研究開発機構(原子力機構)には、事故炉の廃炉のための燃料デブリ(塊)の取り出しや廃棄物の処理・処分などの技術開発、避難区域等での除染実証業務、空間線量率の測定、土壌や湖沼河川などでの放射性物質の挙動解明など、重要な仕事があります。ところが原子力機構では、大幅な人員削減が進められて安全確保や技術継承が困難をきわめており、その上にトラブル続発の「もんじゅ」に相当の人員が異動して、福島原発事故関連の仕事の遂行に支障をきたしています。「もんじゅ」にかき集められた人たちの中には、精神疾患の多発と士気の著しい低下が報じられています。

使用済み核燃料の再処理もまったく目途が立っておらず、「もんじゅ」も含めて、破綻が明らかにな核燃料サイクルからは直ちに撤退すべきです。

「エネルギー基本計画」は原子力発電を「ベースロード電源」とする一方、太陽光や風力などの自然

エネルギー発電は「ピーク電源」としか位置づけていません。自然エネルギー発電は需要の大きな時間帯の調整用に使い、原発に従属させるというのです。ヨーロッパ連合(EU)の電力政策はまったく逆で、自然エネルギーが主で原発はこれに従属させる考え方です。EUの法律にあたる指令は、自然エネルギーの導入をすすめるために「優先給電」を義務づけています。これは、太陽光や風力などの自然エネルギーの電力は優先的に電力系統に流さなければならぬというルールで、自然エネルギーの出力が増えた場合には原発の出力は絞らなければなりません。

そもそも、ベースロード電源とピーク電源という分類自体が時代遅れであり、「エネルギー基本計画」の発想は世界の新しい流れから完全に切り残されています。

福島原発事故は国民に、日本の将来はこのままでいいのかという疑問を投げかけました。東北地方太平洋沖地震の地震動と大津波を引き金にシビアアクシデントを発生させた原発は、日本が歩んできた大量生産・大量消費・大量廃棄の社会を象徴するものであって、そういう道はいずれ破綻すると少なくない国民が考えました。福島原発事故は明らかかな「人災」です。「人災」である以上、原因を取り除けば事故の再発は防ぐことができます。事故の原因を取り除くこと、それは原発をなくすこと、原発のない日本をつくることです。

(核・エネルギー情報センター理事、本会世話人)

## 非核石川の会 リレーエッセイ

### 生まれた時は戦争だった

鍋野正道

私が生まれたのは、一九三六年の二・二六事件の一月後の三月二五日、満州事変勃発、日中戦争の一年前。小学校に入るときは真珠湾攻撃の始まった直後。一五年戦争の始まりから終わりまで、どっぶり戦争の中で生まれ育ちました。

戦争というのは、単に軍人が戦場で戦うと云う単純なものでは無い。国民の全生活が戦争中心に動かされるのです。

朝起きて寝るまで、いや寝てからも戦争の中で暮らすのです。新聞もラジオも学校も文化も生産も生業も、歴史も信仰も、この世に生まれ出でた赤子の命名から、終焉のお弔いの仕方まで、道に生えている草も、松の木も全てが戦争に動員されるのです。

何をオーバーな話をと言われそうですから、身近な話をしましょう。

私の家の近所の大工さん、中国で負傷し生涯身障者でした。壁屋さんはシベリヤで捕虜生活をおくりました。建具屋さんの奥さんは夫の出征中、肺を患いひっそり暮らしていました。

写真屋の爺さんは、最初は軍刀を突いて勇ましい姿の出征兵士を撮影して大忙しでした。やがて遺影の肖像写真をガラス版にデフォルメする写真制作が主な仕事でした。こんなことが隣近所、日常茶飯事に起きていたのです。

私の叔母さんは、花嫁学校を出て満州に行き軍属と結婚、軍国の花嫁ともてはやされたのですが、

どうした事情か知りませんが一人で帰還しました。戦後のある日、私の家にあつた当時のアルバムを発見し、写真をすべて破り捨てました。

叔父さんは、鉄工所の職工でしたが徴兵され、長野県松本の連隊から中国に出兵、最後は何処かの地下壕工場に配属され、兵器を造っていたそうです。

父は幸い兵役を免れましたのは、冶金工場で働いていて、排煙に喉をやられていたからです。母方の伯父一家は疎開して来て、私の家の二階に住んでいました。

学校の運動場は、さつま芋畑でした、廊下と教室は吉田印刷の工場になっていました。体操の時間は草刈に駆り出され、短い草は堆肥にし、長い草は軍馬の飼葉として供出、理科の時間は縄結び、修身の時間は教育勅語の朗読と歴代天皇の名前を暗唱させられました。

書けばきりがありません。戦争とはこんなに凄まじいものなのです。

#### 『新しい憲法のはなし』と九条の会

国民学校三年生の夏休みに終戦。玉音放送の翌日学校に集合させられ、校長先生の話がありました。さつぱり分かりませんでした。ただ教頭先生が大声で泣いているのが不思議で、高等科生徒が「東条のバカ野郎」と廊下の腰板を足蹴にしていたことを覚えています。

平和が来たと実感したのは何日からだろう。考えでも思ひ出されません。

でも中学校一年生の時、『新しい憲法のはなし』を習ったことは鮮明に憶えています。その授業は特別に校長先生が教えてくださいました。当時の教科

書は、今復刻されている版と違って紙もお粗末でしたが、カラー表紙で挿絵もつき、立派に見えたものでした。でも内容をおぼえているとか言えば曖昧で、九条の会を作るとき、「これだ！」と、皆さんに話したものです。聞くと間もなく打ち切られ、私は最後の受講生かもしれませぬ。

#### 青年時代も戦争でした

中学を出て、憧れの鉄工所に就職。でも間もなく朝鮮戦争。特需景気で涌く中で、内灘闘争がはじまりました。はじめは労働組合の動員で内灘砂丘を駆け巡るうちに、河北潟の潟辺にたつ船小屋のなかで仲間と電車がなくなるまで語り合ったり、歌を唄ったり、次第に生きる方向が定まったのが一八歳の夏。安保闘争があり、ベトナム戦争があり、やっぱり戦争と向き合って生きてきました。幼いころの戦争体験が「戦争は反対だ！」この方向に向かわせたのだと思います。

でも、あんまり学んでいない奴がいて、あの暗黒時代に本気で戻そうと思っているらしい。行き先がないのにバカだなくと思う。「やっぱり金でしよう」と言ったら顰蹙（ひんしゆく）を買いますか。

#### 死ぬときも戦争でした

絶対にさせたくない。生まれた時から終焉まで戦争で生きたくない。否、死にたくない。

少々暑くとも、都合がつけば、ハンドマイク宣伝に出ようか、ポスターも貼ろうか、ビラも配ろうかと思う。わが在所には八〇才をとくに超えた方がマイクを握ってガンバッテいますので、それも弱音をはいていられない。

安倍が国会でどんなに詭弁を弄しようが、公明党

がどう言いつくろうが、戦争への道に国民を引きずり込もうとした犯罪は、永久に記録されるだろうし、いずれ国民の審判を受けることは避けられないでしょう。

日本国、元首相がA級戦争犯罪者として国際的に裁かれることの無いようにしたいものです。

## 「スターリン秘史」を読んでいます

西村 昭

『前衛』二〇一三年二月号から連載が始まった「スターリン秘史」(不破哲三)を毎号楽しみにしています。

今日いまだに残っている日本とロシア(旧ソ連)との平和条約未締結問題や領土問題を考えるとき、連綿と続いている自民党型の政治では基本的解決は不可能と思う。

領土不拡大を掲げた第二次大戦後の処理の基本を破り、ソ連が千島列島を占領し続け、ソ連が崩壊しロシアとなった今日、いまだになぜ解決できないのか。

問題の根源はスターリンが国内では大粛清を行い専制政治を行い、対外的にはドイツと不可侵条約を結び、日独伊三国同盟に近づき四か国同盟を構想し領土拡張を外交の基本にしたことにある。

日独伊三国同盟は、地球の地図の塗り替えをしようという同盟だったそうだ。日本は「中国、東南アジア」を、ドイツ・イタリアはヨーロッパ(アフリカを含む)をと、領土の再分割を試みようとしたものだった。

バルト三国の支配とフィンランドを領土とすることを保障した独ソ不可侵条約を結んだスターリンが、日独伊三国同盟に加わり、世界を再分割する四か国同盟を夢想していたと知って本当に驚いた。スターリンというのはこういう独裁者であることを知らなかった。

その後、スターリン一派は、日本の革命を旧ソ連流にしようと画策し、意にそぐわない指導者を排除しようとする、およそ民主主義と相いれない政治をしてきたことは現代史の中で知った。

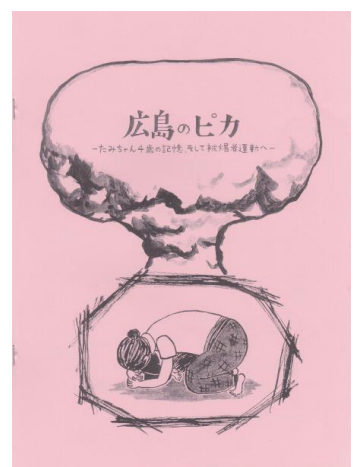
しかも、旧ソ連からロシアになった今日も、覇権主義的な領土拡張政策が一貫している。こんな相手に、北方領土問題と名付け、北海道の一部と千島列島の一部の返還をお願いするのでは初めから相手に甘く見られてしまう。本当に国民のための外交交渉にならないように思う。歴史を学び、何が本流なのかを見極めた上での交渉が必要だと思う。

知らなかったことを知って、とても楽しいです。『前衛』連載の「スターリン秘史」(不破哲三)読まませんか。きっと、後日単行本になると思います。

## 「広島のパカ」が出来るまで

西本多美子

被爆者が高齢となり、様々な疾病を抱え、亡くなる人たちも増える中で、一人でも多くの被爆体験を後世に遺りたい。それも映像でと思い語っていたら、平和サークル「むぎわらぼうし」が、昨年四月の例会で取り上げてくださった。具体的な内容、案



西本多美子さんの  
被爆証言をまとめた  
「広島のパカ」

内チラシ、ビデオ撮りなど、絵本画家のかるべめぐみさんが担当・手配して「ヒロシマ原爆ひばくしゃのお話をきく会」として私がお話することになった。当日は六〇人も参加があり、一時間余りお話をさせていただいた。これで映像に残せると思っていたら、年が明けてテープ起こしをしたのでチェックしてほしいとのこと。六、七人が正月返上で作業した。本当にびつくりした。話の区切り区切りでは的確な見出しまで入れてある。一週間程で校正し、四月になつて製本にとりかかった。パソコンでの入力も挿し絵(かるべさんが図書館まで行って正確なきのこ雲を描く)も印刷も全て手作りで業者の手は通っていない。

一〇人程が一行になつての流れ作業で一冊にまとめていく。最後にホッチキスで止めて出来上がり。半日がかりで三〇〇部作成した。この三〇〇部は一ヶ月でなくなり、五月にまた二〇人程で五〇〇部増刷。これも残りわずかになつてしまった。

四歳八か月の幼児被爆の私はどちらかという受け手の方になると思う。たくさん被爆体験を読み込み、聞き取り、四苦八苦して被爆証言をしてきた。



「広島のパカ」が出来上がるまでに何人の人が関わってくださっただろう。ご苦労さん会をした時、初めて見る顔が何人もあった。子ども連れの若い母親、青年、「むぎわらぼうし」の会員の友人：等々みなさんこのことに関わらせてもらって本当に良かったところも思いを語られた。ただ聞くだけでなく、何らかの作業に関わったことよって思いが深まっていったのではなからうか。被爆体験の継承運動の一つの典型になったと心からうれしく思っている。

**詩人会議かなざわ「独標」より**

**春霞**

土井和子

花が満開のうらかな春  
病院の待合室に

大げの後に残された後遺症

不自由に縛られた毎日から

どうかして解放されたいと

微かな希望を抱いた闘病仲間の

車いすが輪を描いている

「わしら長い間、待つとるね」

「万能細胞を脊髄に入れたら指が踊って足も動く」

「いつかその日が来るちゃ」

iPS細胞

ES細胞

医学の進歩はゆっくりとした希望の灯

STAP現象を唱える若き女性の研究は

論文のミスが重なり今はバッシングの嵐



**絵手紙コーナー**

金沢医療生協絵手紙班 竹味恭子

「捏造やら改ざんやら杜撰やら言うけれど」  
「組織の中でしつかりと練り上げての発表なら不自由を救う女神だったかもしれない  
万能細胞を待つとる者がここにいつぱいおる」  
「ああ、生きているうちに障害を持つ人間に  
応用できたという事を確かめたいもんだね」  
誰かのために役立つ研究を続けたいと語り  
いまだ医学から見捨てられてる障害と  
真正面から向き合った四面楚歌の  
彼女の澄んだ日からこぼれる涙が心を打つ  
閃きを持つフロンティアなのかペテン師なのか  
春を騒がして咲いた桜が散ったあと  
まだ遠い幾つもの春を待つ研究だろうと  
車いすの輪は散り散りに帰路へ  
もやもやとした春霞の中に吸い込まれて行った



尾西洋子・作

**《編集室より》**

◎原水爆禁止世界大会に参加した時、NHK広島放送局の「被爆七〇年企画／平和アーカイブ展」で、輪島市の被爆医師、清水正明さんの絵画が『原爆の絵』（NHK出版）に収載されていることを知った。熱線で全身を焼かれた若い女性の姿が描かれており、清水さんが八四歳の時に描かれたものである。清水さんが輪島市に寄贈し、現在本紙でシリーズ掲載している被爆絵画は一三点である。最後の一枚として描き残された一四点目の絵画も本紙で紹介できないだろうか。（か）

◎石川県内の被爆者の子世代でつくる「石川県原爆被災者友の会二世部会」が発足して今夏、一年を迎えた。北陸中日新聞八月五日付によると日本被団協の調査では、原爆で被爆した親を持つ「被爆二世」の組織があるのは石川、東京など十二都県である。県内の被爆二世の会づくりに尽力してきた池田治夫氏（本紙編集委員）は、「被爆体験を後世に継承するため、一世の願いを受け継ぎ、非核の声を上げ続けたい」と述べている。（K）

故清水正明医師の被爆絵画シリーズ⑫

ピカドン

それは未だ見たことのない閃光であった  
強いていえば、

電線のショートしたような青白い閃光であった

その時出来た直径一四〇米の火の玉の温度は

摂氏三十万度、五八〇米下の地上で七千度

爆風の強さは一平方米あたり五トン

その他に恐るべき放射能を出した

これらによって約二〇万の人命が奪われ

約三〇万の人が被爆者となった(広島のみで)

更にその人達の子孫への影響が

心配されている

将来、再びこんなもの(核兵器)が使われたら

人類は滅亡するかも知れないといわれている



輪島市教育委員会所蔵

《非核平和・行事予定》

月	日	曜	時	行事名	場所
8	22	金	19:00	わらび座ミュージカル「ブッダ」公演	金沢市文化ホール
	23	土	14:00	石川憲法学校開校記念講演会	石川民医連会館
	26	火	午前	原爆と人間展(～9/15)	かほく市海っ子ランド
	29	金	18:30	2014年原水爆禁止世界大会報告会	石川民医連会館
	30	土	13:00	日本科学者会議原子力発電問題全国シンポジウム	金沢市駅西健康ホール
	31	日	9:00	(同上)	(同上)
	31	日	午後	現地視察・志賀原発周辺の岩石海岸	富来川南岸
	31	日	10:30	いしかわピース9フェスティバル2014	野々市市交遊舎
9	6	土	17:00	核廃絶署名行動	金沢駅東口前
	9	火	12:00	核廃絶署名行動	武蔵Mza前
	9	火	14:00	石川県宗教者平和協議会総会／講演：中嶋哲演氏	金沢市東別院
	12	金	13:00	日本高齢者大会2014年 in 富山	富山大学
	13	土	9:00	同上記念講演・池田香代子「平和な未来をきずく・100人の村・あなたもここに生きます」	富山市総合体育館
	13	土	14:00	金沢弁護士会「立憲主義から集団的自衛権を考える」市民集会／講演：阪田雅裕元内閣法制局長官	金沢歌劇座大集会室
	14	日	14:00	鶴彬をたたえる集い・碑前祭 映画会「時代を撃て・多喜二」	高松歴史公園・南町会館
	20	土	14:00	石川憲法学校金沢教室	石川民医連会館
	23	休	11:00	石川県解放戦士合祀追悼集会	卯辰山公園
	27	土	14:00	石川県憲法学校羽咋教室	羽咋勤労者福祉センター

\*編集部注：祝日は休日(国民の休日)と表記します。

\*毎週金曜日 18:30 どいね原発アピール行動 JR金沢駅東口